

## お米のはなし

お米や稲に関するちょっとした情報・豆知識を専門家が綴る「お米のはなし」の第55弾をお届けします。

(シリーズ担当：R.I.)

### 第55話 米騒動

平成の米騒動より以前にも、凶作でコメ不足になったり、価格が上がったりして、人々がコメを買えなくなって騒動になったことは何度もありました。

中でも有名なものは、明治23(1890)年と大正7(1918)年に起きた米騒動です。

#### 1) 明治23年(1890)の米騒動

この前年の凶作とコメの価格の上昇が原因となり、1月に富山市において、市民による市役所・資産家に対する救助要請運動が始まったのをきっかけとして、同年4月から9月にかけて鳥取県、新潟県、福島県、山口県、京都府、石川県、福井県、滋賀県、愛媛県、宮城県、奈良県など19箇所において騒動が発生しました。新潟県佐渡郡相川町では、6月28日から7月5日にかけて鉦夫を中心として2000名以上が蜂起する事態となり、軍が出動して暴動を鎮圧しています。

#### 2) 大正7年(1918)の米騒動

コメの価格上昇と買い占めが原因となり、この年の7月に富山県で起きた騒動が各地に広がり、青森県、岩手県、秋田県、沖縄県などを除いた国内のほとんどの地域で大きな騒動が起きました。大正3年(1914)の第一次世界大戦開始直後に暴落した米価は、周りの物価が少しずつ上昇していくなかで、約3年半の間ほぼ変わらない値段で推移していましたが、大正7年(1918)の中ごろから急激に上昇し始めました。大阪堂島のコメ市場の記録によれば、大正7年1月に1石(150kg)15円だった米価は6月には20円を超え、7月17日には30円を超えるという異常事態になったのです(当時の一般社会人の月収が18円~25円)。7月末から8月初めにかけては各地の取引所で立会い中止が相次ぎ、地方からのコメの出回りが減じ、8月7日には白米小売相場は1升(1.8ℓ、1.5kg)50銭、すなわち1石50円に暴騰しました。

当時、民衆は深刻な食糧危機と生活難に陥っていました。こうした状況下の7月23日、富山県魚津市で漁民婦人たちが同県産米の県外移出阻止運動<sup>1</sup>を起したのを皮切りに、同県各地で大衆行動が続発し、米騒動は急速な勢いで全国各地に波及していったので序に、飢餓や飢饉についても整理しておきましょう。特に、わが国における飢餓と飢饉は、米作との関りが深いので、それらの因果関係を明らかにすることは意味あることと思

<sup>1</sup> 2004年刊行、井本三夫(監修)歴史教育者協議会(編集)『図説 米騒動と民主主義の発展』(民衆社)では、「1918年夏の米騒動について残っている証言・資料に現れている、最も早い時点での行動は、東水橋町の女性陸仲仕たち20数人によって、7月上旬から始められた、移出米商高松への積出停止の要求の行動です。」とまとめられています。

コメ騒動は、必ずしもコメの豊凶とは関係なく、コメの流通量の減少や価格高騰によって民衆がコメを手しづらくなるのが要因となって起こる騒ぎなのです。

います。米屋にコメの安売りを要求し、コメの投機商人や米穀取引所をはじめ、高利貸や地主なども群衆の襲撃の対象となったので、政府は警察のほか軍隊を出動させて鎮圧に当たりましたが、9月19日までに1道3府32県、約500カ所に発生し、直接参加者は約70万人と推定されました。このため9月、寺内正毅内閣は崩壊し、原敬政友会内閣が誕生したのです。米騒動は、事前になんらの組織もなかった自然発生的な蜂起として、近代日本が経験した初めての大規模な大衆闘争でした（ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典から抜粋引用）。

**飢餓<sup>2</sup>** (starvation) とは、食糧の不足によって栄養失調が続き、体調の維持が困難になっている状態です。現在、飢餓状態にある人は世界中で約6億8780万人に上ると報告されています(2020年7月現在)。特にアフリカには、飢餓状態にある人が多く、飢餓蔓延率は世界で最も高いとされ、飢餓人口は2019年には55カ国1億3500万人といまも増え続けています。

参考までに、江戸の四大飢饉を下表に示しました。

名称	時期	被害の中心地	当時の将軍	原因
寛永の大飢饉	寛永19年(1642年) -寛永20年(1643年)	全国(特に東日本日本海側の被害が大)	徳川家光	全国的な異常気象(大雨、洪水、旱魃、霜、虫害)
享保の大飢饉	享保17年(1732年)	中国・四国・九州地方の西日本各地、特に瀬戸内海沿岸一帯	徳川吉宗	冷夏と虫害
天明の大飢饉	天明2年(1782年) -天明7年(1787年)	全国(特に東北地方)	徳川家治	浅間山、アイスランドのラキ火山等の噴火とエルニーニョ現象による冷害
天保の大飢饉	天保4年(1833年) -天保10年(1839年)	全国(特に東北、陸奥国・出羽国)	徳川家斉 徳川家慶	大雨、洪水と、それに伴う冷夏(稲刈りの時期に雪が降ったという記録がある)

表 55-1 江戸四大飢饉

(出典) フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B1%9F%E6%88%B8%E5%9B%9B%E5%A4%A7%E9%A3%A2%E9%A5%89>

<sup>2</sup> 飢餓の原因について、1971年、フランシス・ムア・ラッペ Frances Moore Lappé が、食べものを富めるものが浪費してしまうという富の格差が、飢餓の根本的な原因であり政治的な問題であると告発した本「小さな惑星の緑の食卓—現代人のライフ・スタイルをかえる新食物読本」Diet for a Small Planet: The Book That Started a Revolution in the Way Americans Eat が、ミリオンセラーとなったことがありました。

**飢饉 (famine)** とは、何らかの要因により人々が飢え苦しむことを指します。狭義には、一地域における死亡率を急激に上げるような極端な食料不足の事態を指すことが多いようです。主食とする農産物の大規模な不作を契機とする場合が多いのです。

飢饉の原因は、多種多様ですが、飢餓被害をより一層悪化させる要因に失政や悪政があります。飢饉は、自然災害や人為的な要因によって発生します。自然災害による例には、①火山の噴火、②地震、③台風、④長雨・日照り・早ばつ、⑤霜や雹、⑥虫害（ウンカによる害、<sup>こうがい</sup>蝗害と呼ばれる）、⑦植物病害、⑧疫病による、農業などの食糧生産者の人口減、などがあります。

---

**発行：(公社)国際農林業協働協会(JAICAF)**  
**〒107-0052 東京都港区赤坂 8 丁目 10-39 赤坂 KSAビル 3 階**